

CASBEE-建築(新築)2016年版  
 プロセスパーク京田辺

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>					<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.50		<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		3.2	0.15	-	3.2
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	
1.3 吸音	床:タイルカーペット、天井:ロックウール吸音板	4.0	0.20	-	
<b>2 温熱環境</b>		2.5	0.35	-	2.5
2.1 室温制御		3.2	0.50	-	
1 室温		3.0	0.38	-	
2 外皮性能	外壁に断熱性能の高いサンドイッチパネルを採用	4.0	0.25	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	
<b>3 光・視環境</b>		3.3	0.25	-	3.3
3.1 昼光利用		4.0	0.30	-	
1 昼光率	事務室の昼光率が高くなるように配慮した	4.0	0.60	-	
2 方位別開口		-	-	-	
3 昼光利用設備	頂側窓(ハイサイドライト)を設けている	4.0	0.40	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	
<b>4 空気質環境</b>		4.1	0.25	-	4.1
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	
1 化学汚染物質	内装にはF☆☆☆☆の塗材をほぼ全面的に採用	5.0	1.00	-	
4.2 換気		3.3	0.30	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	
3 取り入れ外気への配慮	給気口と排気口は6m以上離されて計画している	4.0	0.33	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	
<b>Q2 サービス性</b>			0.50		<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>		4.2	0.40	-	4.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40	-	
1 広さ・収納性	1人あたりの床面積は9㎡以上	4.0	0.33	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	
3 バリアフリー計画	建築物移動円滑化基準を満たしている	4.0	0.33	-	
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30	-	
1 広さ感・景観	天井高:2.8m	4.0	0.33	-	
2 リフレッシュスペース	執務室面積の1%以上の休憩室(食堂)、自動販売機の設置	5.0	0.33	-	
3 内装計画	インテリアパースによる事前検証を実施している	5.0	0.33	-	
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	
1 維持管理に配慮した設計	維持管理の容易性に配慮した内装計画等を実施	4.0	0.50	-	
2 維持管理用機能の確保	維持管理に寄与する施設機能の確保を実施	5.0	0.50	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		3.1	0.30	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装材を使用している	5.0	0.10	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:SGP-VE(VLP)→B、空調冷媒管:CUP(冷媒)=銅管→C 排水:YP→B	5.0	0.20	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	
2.4 信頼性		3.6	0.20	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	
2 給排水・衛生設備	節水型器具を採用、井水、中水等の利用が可能な計画	5.0	0.20	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	
5 通信・情報設備	災害時の電話を設置している	4.0	0.20	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.3</b>	<b>0.30</b>		-	<b>4.3</b>
3.1 空間のゆとり			<b>5.0</b>	<b>0.30</b>		-	
1	階高のゆとり	階高6.8m	<b>5.0</b>	<b>0.60</b>		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.028	<b>5.0</b>	<b>0.40</b>		-	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重:1F:18,000N/m <sup>2</sup> 、2F~6F15,000N/m <sup>2</sup> 。	<b>5.0</b>	<b>0.30</b>		-	
3.3 設備の更新性			<b>3.4</b>	<b>0.40</b>		-	
1	空調配管の更新性		<b>3.0</b>	<b>0.20</b>		-	
2	給排水管の更新性		<b>3.0</b>	<b>0.20</b>		-	
3	電気配線の更新性	ラック、配管配線:構造材・仕上材を痛めず更新・修繕可能	<b>5.0</b>	<b>0.10</b>		-	
4	通信配線の更新性	ラック、配管配線:構造材・仕上材を痛めず更新・修繕可能	<b>5.0</b>	<b>0.10</b>		-	
5	設備機器の更新性		<b>3.0</b>	<b>0.20</b>		-	
6	バックアップスペースの確保		<b>3.0</b>	<b>0.20</b>		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.40</b>		-	<b>3.6</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>3.0</b>	<b>0.30</b>		-	<b>3.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮		建物を中心に配置、植栽による周辺との景観調和に配慮	<b>5.0</b>	<b>0.40</b>		-	<b>5.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>2.5</b>	<b>0.30</b>		-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>2.0</b>	<b>0.50</b>		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	<b>0.50</b>		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>4.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>		-	<b>4.3</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制						-	
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	<b>0.13</b>		-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.38	<b>5.0</b>	<b>0.63</b>		-	<b>5.0</b>
4 効率的運用			<b>3.5</b>	<b>0.25</b>		-	<b>3.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.5</b>	<b>1.00</b>		-	
4.1	モニタリング	用途別にエネルギー消費量の把握が可能	<b>4.0</b>	<b>0.50</b>		-	
4.2	運用管理体制		<b>3.0</b>	<b>0.50</b>		-	
集合住宅の評価						-	
4.1	モニタリング					-	
4.2	運用管理体制					-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>		-	<b>3.8</b>
1 水資源保護			<b>3.4</b>	<b>0.20</b>		-	<b>3.4</b>
1.1	節水	主要水栓の過半以上に節水型器具を採用	<b>4.0</b>	<b>0.40</b>		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	<b>0.60</b>		-	
1	雨水利用システム導入の有無		<b>3.0</b>	<b>0.70</b>		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		<b>3.0</b>	<b>0.30</b>		-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>4.1</b>	<b>0.60</b>		-	<b>4.1</b>
2.1	材料使用量の削減	機械式継手、BCP、高強度コンクリート、NewRCSS、ハイベスNEO	<b>5.0</b>	<b>0.11</b>		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		<b>3.0</b>	<b>0.22</b>		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	<b>3.0</b>	<b>0.22</b>		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル床材:床、タイル:外構、ボード:天井	<b>5.0</b>	<b>0.22</b>		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	分別が容易なLGS壁工法、再利用可能なOAフロア	<b>5.0</b>	<b>0.22</b>		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.3</b>	<b>0.20</b>		-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	<b>0.30</b>		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	<b>0.70</b>		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP<50の断熱材を使用している。	<b>4.0</b>	<b>0.50</b>		-	
3	冷媒		<b>3.0</b>	<b>0.50</b>		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>		-	<b>3.7</b>
1 地球温暖化への配慮		CO2排出量に配慮した計画	<b>4.1</b>	<b>0.33</b>		-	<b>4.1</b>
2 地域環境への配慮			<b>3.7</b>	<b>0.33</b>		-	<b>3.7</b>
2.1 大気汚染防止		オール電化を採用している	<b>5.0</b>	<b>0.25</b>		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	<b>0.50</b>		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>4.0</b>	<b>0.25</b>		-	
1	雨水排水負荷低減	「基本蓄雨高100mm」に必要な蓄雨高を確保している	<b>5.0</b>	<b>0.25</b>		-	
2	汚水処理負荷抑制		<b>3.0</b>	<b>0.25</b>		-	
3	交通負荷抑制	適切な駐車台数や車両出入口を計画している。	<b>5.0</b>	<b>0.25</b>		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		<b>3.0</b>	<b>0.25</b>		-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.2</b>	<b>0.33</b>		-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	<b>0.40</b>		-	
1	騒音		<b>3.0</b>	<b>1.00</b>		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	<b>0.40</b>		-	
1	風害の抑制		<b>3.0</b>	<b>0.70</b>		-	
2	砂塵の抑制					-	
3	日照障害の抑制		<b>3.0</b>	<b>0.30</b>		-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	<b>0.20</b>		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明や広告物照明は光害に配慮している	<b>5.0</b>	<b>0.70</b>		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		<b>3.0</b>	<b>0.30</b>		-	